

伊豆半島の衝突と足柄

1年生はこんなタイトルをみて、きっとびっくりしたことでしょう。私は昨年4月に足柄高校に異動してきたのですが、もともと地理の教員なので、地域の歴史や地理を紹介する目的でこの通信を出しました。もちろん、それ以外のテーマの時もあります。

先日、小田原北条氏の家臣として知られた松田氏の居館跡をみるために、旧246号線の^{しよし} 交差点から急な坂を登り、山の斜面に残る遺跡を確認してきました。東名高速道路の建設により一部が破壊されましたが、当時としては要塞のような機能も持っていたであろう^{ようさい} 武士の居館は、足柄平野を見渡す丘の上にあります。松田氏については、別の稿で取り上げる予定です。

松田から山北を抜けて静岡県の駿河小山まで、急に盛り上がったような台地がずっと続き、その中を険しく谷が刻まれて、川が流れています。これは、この台地が何らかの理由で急に隆起して、そこを川が^{りゅうき} 侵食したためにできた地形と考えられます。下の図はこのあたりの地質を調べた地図です。何か南西（左下）の方向から力が加わって、全体が曲がって盛り上がった感じがみてとれますね。

これははるかフィリピン海の方から、伊豆半島が地殻のかたまりであるプレートの上に乗ってやってきて、本州にぶつかったことの現れなのです。このため、国府津から松田を経て山北町の^{かんかわ} 神縄にかけて、大きな断層（地層の区切れ）ができています。この断層は相模湾の海底まで続いていて、相模トラフと呼ばれています。1923（大正12）年の関東大震災の震源となったのはここです。

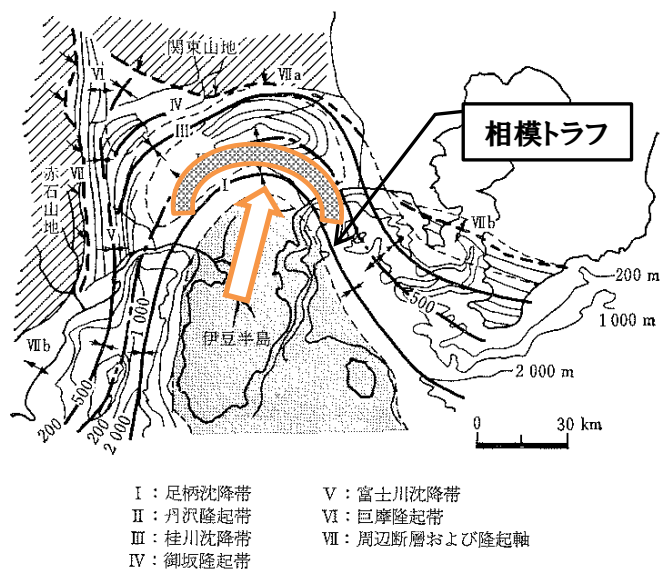


図 III-12 南部フォッサ・マグナの隆起帯と沈降帯（神奈川県，1964）

松田町の^{やどりき} 寄や山北町の三保などに行くときには、険しい谷を沿いに道路が走っていますね。また、渋沢から松田までの小田急線沿いには、川音川（四十八瀬川）の両側に切り立った崖が続きます。これらはなだらかだったところが隆起して、激しく川に侵食されたためにできた地形で、山の上に登るとなだらかな台地になっていてゴルフ場や牧場があるのは、そんな理由なのです。

また、足柄高校から北側の山北方面を見ると、おわんを伏せたような二つの小山があります。一つの山の上にはTOYAMAという会社の事業所があり、もう一つの山には昔このあたりを治めた河村一族の居館（城）跡があります。なんでこんな地形ができたかという、この場所だけ、周りよりも硬い岩石でできていたために、削り残されたのです。

地図は、奥村清編「神奈川県地学ガイド」（コロナ社）より